

## ほのぼ能

### 仕舞「笹ノ段」 ～能・百万より

シテ「げにや世々毎の。親子の道にまとはりて 地「親子の道にまとはりて。猶この闇を晴れやらぬ  
シテ「朧月の薄曇 地「僅かにすめる世になほ三界の首枷かや。牛の車のとことには何処を指し  
て牽かるらんえいさらえいさ  
シテ「輓けや輓けや此の車 地「物見なり物見なり  
シテ「げに百萬が姿は 地「もとより長き黒髪を  
シテ「おどろの如く乱して 地「古りたる烏帽子ひき被き  
シテ「また眉根黒き乱れ墨 地「うつし心か群鳥  
シテ「うかれと人は。添ひもせで 地「思はぬ人を尋ぬれば  
シテ「親子の契あさ衣 地「肩を結んで裾に下げ  
シテ「裾を結びて肩に掛け 地「筵片 シテ「菅薦の  
地「乱れ心ながら南無釈迦弥陀仏と。信心を致すも我が子に逢はんためなり

### 仕舞「弱法師」

シテ「住吉の。松の隙よりながむれば 地「月落ちかる淡路島山と  
シテ「眺めしは月影の 地「詠めしは月影の。今は入日や落ちかかるらん。日想観なれば曇も  
波の。淡路絵島。須磨明石。紀の海までも。見えたり見えたり。満目青山は。心にあり  
シテ「おお。見るぞとよ見るぞとよ 地「さて難波の浦の致景の数々  
シテ「南はさこそと夕波の。住吉の松影 地「東の方は時を得て  
シテ「春の緑の草香山 地「北は何処 シテ「難波なる  
地「長柄の橋の徒らにかなた。こなたとありく程に。盲目の悲しさは。貴賤の人に行き合ひの。  
転び漂よひ難波江の。足もとはよろよろと。実にも真の弱法師とて。人は笑ひ給ふぞや。  
思へば恥かしやな今は狂ひ候はじ今よりは更に狂はじ